

自己評価シート 3年間のまとめ

団体名：赤城クリーン・グリーン・エコネットワーク

	第1年次（平成19年度）	第2年次（平成20年度）	第3年次（平成21年度）
1. <b>計画の妥当性</b> ＜視点例＞テーマ設定 / 現地ニーズの把握 / プロジェクト規模・サイトの選定 / 計画・実施のタイミング等	前橋市教育委員会管下の前橋市児童文化センターを募集窓口として、前橋市の小学校中心にした児童・生徒対象に4回プログラムを企画し、公募したところ、4回とも定員オーバーとなり、中には定員の4倍の応募者があった。 結果として公開抽選により、参加者を決定した。リピーターもかなり出てきており、保護者から、次回の予定を問い合わせや感謝の手紙が届いている。	・環境教育指導者養成講習会を前橋市の現場教職員対象に3回実施し、環境教育の大切さが認識された。 ・環境教育指導者養成講習会を2回実施し、参加者にインタープリテーションと気付きの大切さが理解された。今後実践に協力するとの申し出を受け、指導者のネットワークが広がった。 ・松枯れの実体験と炭づくりを通じた上下流域の交流はシブヤ大学MOTTAINAI 学科の校外授業として、エコツアーが10月に実施でき、H21年度は9月に炭を使用した植林を行う。松枯れを教材にした環境教育の実践につながった。	・小学生を中心に、幼稚園年長園児～高校生まで発達段階毎にプログラムの実践検証を実施し、プログラムの作成に役立った。 ・松枯れ林地再生プロジェクトとして、初年度の炭窯づくりから参加したシブヤ大学と地元参加者による水源の森づくりの今後の継続発展が確認できた。 ・国内先駆者の指導による発表会や講習会及びアンケート調査がプログラムのブラッシュアップにつながる。 ・HP公開により3年間の活動報告やプログラム＆団体・施設紹介等による現場教師への情報提供と受発信が可能になり、情報共有により、より効果的な環境教育プログラム実践に役立つ。
2. <b>当初目標の達成度</b> ＜視点例＞当初目標の設定の妥当性 / 達成された目標、されなかった目標等	当初目標：(定性的)学習指導要領に掲載できる環境教育プログラムと体系を作成する。赤城地域の環境教育実施団体の連携を強化し、互いのレベルアップと相互補完、一体化した広報活動で環境教育推進、意識向上を図る。 実際：環境教育プログラムと体系の作成は、実践と地域の資源発掘により地域や施設の特性を活かしたプログラム作成に着手し、モデルとして4種類(7プログラム)を作成。全体体系の完成は、最終年度を予定。連携強化と相互レベルアップは、シンボや活動を通じて関連する別途の協働事業も生み出した。広報活動はネットワークを通じて広範に拡大し、各事業の参加者も目標を達成でき、環境教育の推進と意識向上に寄与できた。	・赤城地域での環境教育資源調査とDB化、環境教育アンケート調査と集計、課題(松枯れ)の教材化を視野に入れたレポートは関係者の協力により成果が得られた。 ・今年度の目標は指導者養成に重点をおき、実践しながらその実績を踏まえ、環境教育指導者養成に取り組んできたが、指導者確保の道筋が見えてきた。 ・環境教育アンケート調査、環境教育資源調査を実施し、DB化してCDにコンテンツとして確保できた。この事はHP公開に向けて着実に進んでいる ・シブヤ大学の一行と一緒に水源の森づくりに取り組んだことから都会の市民と協働してゆたかな広葉樹の森が赤城地域に創られていく事になる。このことで行政を始め地元の理解が進み課題解決に繋がる	前橋市を中心とした赤城周辺の自治体、教育委員会関係、小中学校を対象に、環境教育・自然体験活動の実践と研究・調査・シンポジウムなどにより全国的に標準化できるレベルの環境教育プログラムの策定と体系化を図る 目標は達成できたと思われるが、結果は今後の活用実践にかかっている。 プログラムの実践検証、や指導者養成講習会、プログラム発表と評価、アンケート調査、及び実行委員会を通してより充実したプログラムの作成に繋がった。 ホームページの公開により赤城周辺自治体教育委員会官下の小中学校を初め全国的な環境教育プログラムの普及・啓発に繋がる。
3. <b>実施の効率性</b> ＜視点例＞実施体制・しくみづくり / 現地住民・関係者との連携 / 活動地域に合った手法・技術であったか等	環境教育プログラム策定実行委員会を11回開催し、計画をたて、実行した。 ・赤城地域7自治体の教育委員会の後援が得られた。 ・前橋市教育委員会、前橋市政策課、環境課をはじめ群馬県等の行政機関の協力が得られた。 地域の企業・市民団体・公的団体の協力が得られ、それぞれの長所提供の協力がいただけた。	・赤城地域7自治体の教育委員会の後援が得られた。 赤城を取り巻く自治体はもう1市沼田市があるが、今後は沼田市も後援協力が得られることとなった。 ・前橋市教育委員会、前橋市政策課、環境課をはじめ群馬県等の行政機関の協力が得られた。 ・地域の企業・市民団体・公的団体の協力がえられ、それぞれの長所提供の協力がいただけた。 ぐんま昆虫の森、群馬天文台、電力中央研究所等と人的ネットワークが確立された。	・赤城を取り巻く全自治体(6市1村)と群馬県の教育委員会に認知され信頼関係が確立した。 ・環境教育に資する資源調査や活動報告会をとおして赤城自然塾メンバー111の団体・個人と連携がとれており環境教育プログラム実践に協力が得られる。 ・水源の森エコツアーの継続によりシブヤ大学や新宿環境活動ネットとの連携・協力関係が確立した。 ・サンデン(株)、電力中央研究所、(株)プラス、上毛資源(株)、鹿島建設(株)等企業との協力関係が確立した。
4. <b>プロジェクトの効果</b> ＜視点例＞環境面での直接効果 / 地域住民の参加 / 住民の所得向上 / 雇用増加等	・子どもたちへのプログラム実践から地域の自然環境保護の認識につながり、松枯れ等の地域の課題を教材にしたプログラムの実践から、広く環境問題の認識が進んだ。 ・水源の森づくりが始まり、下流域の市民の参加が得られた。 ・広域連携による効果として、地元自治体、地元高校の新入生によるボランティア、国立赤城青少年の家および我々の協働による広葉樹による水源の森づくりがスタートした。 ・指導者への研修が必要だということが判明した。 ・子どもたちの多くから、自然の大切さとその中で生かされていることを学ぶ事ができたという声や、次回のプログラムについて期待する声がかかれた。	・指導者養成講習会の実施から、プログラム実施にあたっては参加者の積極的協力が得られる事となった。 ・水源の森づくりが2年目となり、下流域の市民の参加が得られ、3年目も継続する。 ・広域連携による効果として、地元自治体、地元高校の新入生によるボランティア、国立赤城青少年の家および我々の協働による広葉樹による水源の森づくりが継続事業となった。 ・前橋市児童文化センターの事業展開と協働していくことになる。	・プログラム作成に当たって、教育現場を経験し、現場に戻る研修教員数名と群馬大学教育学部学生(教員免許取得済)の協力が得られ、現場で使いやすいプログラムの作成につながられた。 ・前橋市教育委員会学校教育課、青少年課の全面的教力が得られた。 ・環境ボランティア団体との連携が進み、指導者派遣等の人材確保が出来るようになってきた。 ・プログラム実践を通じた指導者との協力関係の中から、赤城周辺の優秀な人的資源の存在がわかり、協力関係が生まれた。
5. <b>自立発展性</b> ＜視点例＞団体資金源の多様化 / 活動の継続発展のための人材育成・しくみ・組織づくり等	・児童・生徒対象のプログラムは内容の実績評価が進み、事業費の50%は参加費でまかなえた。公開抽選により参加者を決定している状況からすると100%に近づける事が可能である。 ・会場の無料提供等 企業・団体の協力が得られた。 ・事業実績の評価から自治体教育委員会の事業として今後予算化も期待できる。 ・企業・団体のCSR活動として認知されつつある。来年度は企業・団体等へ実績・計画の周知の下、財源協力活動をしていきたい。	・環境教育指導者養成講習会は内容の実績評価が進み、事業費の50%は参加費でまかなえた。1回は公開抽選により参加者を決定している状況からすると100%に近づける事が可能である。 ・会場の無料提供等 企業・団体の協力が得られた。 ・事業実績の評価から自治体教育委員会事業として予算化も期待できる。 ・企業・団体の協力がCSR活動として認知されつつある。来年度は企業・団体等へ実績・計画の周知の下、財源協力活動を実施。	・活動に対する協力に関し、CSR活動としての認知が企業・団体で進み、施設、人材、財政面での協力が得られていく。 ・前橋市を中心とした教育委員会との連携協力関係が進み、臨海学校に替わるプログラムとしての位置づけがされていく。 ・実績評価からプログラム実践に当たって募集定員を毎回オーバーしており、今後の実施に当たってもこの状況は期待できる。 ・プログラム参加者・父兄・指導スタッフとのネットワークが確立しつつある。 ・プログラム参加児童・生徒に将来指導スタッフとして協力頂く。
6. <b>今年次の成果と次年度の課題</b>	・前橋教育委員会も臨海学校、林間学校の見直しを考えている。今後は連携して、小学校の郊外学習に的を絞った環境教育プログラムと実践のモデル作りを行いたい。 ・本年度の活動から指導者養成が大きな課題としてクローズアップされた。来年度は指導者養成研修に力をいれたい。 ・21年度のHPの公開を目指して、来年度は、プログラム・指導者等および施設、団体のコンテンツ作成を行う。	・群馬大学教育学部や岐阜県立森林文化アカデミー、前橋市教育委員会、国立赤城青少年交流の家、前橋工業高校、木の実幼稚園等との連携から、発達段階毎のプログラムの提案をしていく。 ・本年度の活動から指導者養成やプログラムの実践から教育現場の教職員に環境教育の理解者を増やしていくことが課題としてクローズアップされ、来年度はプログラム策定にいかに関与いただくか、またその実践にいかに関与を引き出すかが課題。 ・HP作成を通して、プログラム・指導者・施設・のDB化の更なる充実を行う。	＜助成終了後のプロジェクト・組織の展開について＞ ・赤城クリーン・グリーン・エコネットワークを母体にして「自然の仕組みがわかり、日常生活に活かせる“人づくり”を目的にした赤城自然塾が発足した。 ・策定したプログラムの実践とそのブラッシュアップおよび指導者養成は赤城自然塾が引き継ぎ、実施していく。 ・ホームページによる情報発信は今後赤城自然塾が引き継ぎ、実施していく。 ・課題解決型松枯れ林地再生プロジェクト水源の森づくり事業は赤城CGEの継続事業として実施していく。